

情報通信審議会 情報通信技術分科会

電波利用環境委員会 CISPR I 作業班 (第 8 回) 議事概要 (案)

日時 : 平成 29 年 8 月 31 日 (木) 13:30~15:30

場所 : TKP 麹町駅前会議室 8A 会議室

出席者 (敬称略) :

- (主任) 雨宮 不二雄 NTT アドバンステクノロジー(株) グローバル事業本部環境 ビジネスユニット EMC センタ
 (主任代理) 堀 和行 ソニー(株)品質・環境部プロダクトコンプライアンスグループ チーフEMC/RF コンプライアンスマネジャー
 (構成員) 秋山 佳春 日本電信電話(株)NTT ネットワーク基盤技術研究所 環境基盤プロジェクトマネージャ
 今村 浩一郎 日本放送協会 放送技術研究所 伝送システム研究部 上級研究員
 大西 輝夫 (株)NTTドコモ先進技術研究所ワイアレスフロントエンド研究グループ主任研究員
 長部 邦廣 (一財)VCCI 協会技術アドバイザー
 橋高 大造 (一社)電波産業会 研究開発本部 電磁環境グループ 主任研究員
 幸島 徹 (一財)テレコムエンジニアリングセンター 試験評価部 部長
 小松崎 剛 パナソニック SN エバリュエーションテクノロジー(株) 計測標準部
 塩山 雅照 (株)TBS ラジオ 総務局技術部 部次長 送信所長
 千代島 敏夫 PFUテクノコンサル(株)認証センター EMC 統括主任技術者
 廣瀬 一郎 (一社)電子情報技術産業協会マルチメディア EMC 専門委員会 WG2 委員
 福池 一 (一財)電波技術協会
 星野 拓哉 (一社)情報通信ネットワーク産業協会
 牧本 和之 (一財)日本品質保証機構 北関西試験センター 彩都電磁環境試験所 主査
 松田 与志夫 (一社)電子情報技術産業協会 マルチメディア EMC 専門委員会
 松本 泰 (国研)情報通信研究機構 電磁波研究所 電磁環境研究室 室長
 村上 成巳 (一財)電気安全環境研究所 横浜事業所 EMC 試験センター
 (関係者) 久保田 文人 (一財)テレコムエンジニアリングセンター
 (事務局)

谷口 智哉 総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁監視官
 柴田 由里 総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁障害係長
 清水 隆太郎 総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁障害係

【配布資料】

- 資料 8 - 1 CISPR I 作業班 (第 7 回) 議事要旨 (案)
 資料 8 - 2 - 1 CISPR I WG2 フェニックス会議の審議結果
 資料 8 - 2 - 2 CISPR I WG4 シンガポール会議の審議結果
 資料 8 - 3 - 1 電波利用環境委員会報告概要 (案) (I 小委員会関連)
 資料 8 - 3 - 2 電波利用環境委員会報告 (案) (I 小委員会関連)
 資料 8 - 4 CISPR ウラジオストック会議 I 小委員会 全体会議 対処方針 (案)

参考資料 8-1 CISPR ウラジオストック会議議題案 (CIS_I_561e_DA)

参考資料 8-2 ITU-R WPs 1A-1B からのリエゾン文書

参考資料 8-3 ITU-R WP 1B からのリエゾン文書

参考資料 8-4 CISPR I 作業班 構成員名簿

議事概要

(1) 前回議事要旨 (案) について

- 資料 8-1 前回議事要旨 (案) についての説明がされた。修正意見等あれば 1 週間以内に事務局へ連絡し、修正については主任に一任することが了承された。

(2) WG2 フェニックス中間会議及び WG4 シンガポール中間会議 結果報告

(2-1) WG2 フェニックス中間会議

<資料説明>

- 資料 8-2-1 「CISPR I WG2 フェニックス会議の審議結果」について、千代島構成員から説明があった。主な点は以下のとおり。
 - CISPR32 のメンテナンスについて、6 つのフラグメントとすることが合意された
 - 4.1 項について、発行済文書の審議が行われた
 - 4.3 項 (長期的作業) について、サイト外に接続されるケーブルの終端条件、有線ネットワークポートの伝導測定のための新 AAN 等が審議された

(2-2) WG4 シンガポール中間会議

<資料説明>

- 資料 8-2-2 「CISPR I WG4 シンガポール会議の審議結果」について、星野構成員から説明があった。主な点は以下のとおり。
 - CISPR 35 Ed. 1.0 修正提案に向けた審議を行った
 - 日本からは JP02~JP08 の提案を行った
 - 12 個のタスクフォースが設定され、各リーダーが決定された

<質疑等>

- 8 項のその他の議題について、IEC TC62 の 62D から本問題を扱う勧告が出た。それについて、日本国内委員会に進め方を問い合わせしており、回答を待っている状況である (雨宮主任)
- 4.2 項のイミュニティ試験において「日本からは LTE のノイズから規制化され」との記載についてもご説明をお願いしたい。(事務局)
 - LTE を使った事業が日本で立ち上がるためきちんと検討しなければならないが、特別な意見や議論があったわけではない (廣瀬)

(3) CISPR ウラジオストック会議対処方針 (案) について

- 資料 8-4 CISPR 「ウラジオストック会議 I 小委員会 全体会議 対処方針 (案)」について、雨宮主任

から説明があった。主な点は以下のとおり。

- 6 項について、CISPR/I プロジェクトのレビューを行う
- 7.1 項の WG2 からの報告について、CISPR 32 第 2.0 版のメンテナンス項目に関して、①～⑪の審議事項について対応する。関連文書の番号は後ほどアップデートする
 - ◇ ③について、CD 案は準備済みである
 - ◇ ⑦について、既に CD 文書が発行済みである
 - ◇ ⑪について、6 件の CD 文書を確認することになる
- 7.2 項の WG4 からの報告について、検討状況を確認する
- 12 項のその他について、昨年の杭州会議で議論ができなかったゲーム機器の扱いについて、報告される予定である

<質疑等>

- RMS 平均値検波器を用いた測定について、CISPR 13 では SC-H のプレナリにて日本は反対したが、今回の会議で日本以外に反対する国はあるか（松本）
 - 欧州の各国も懐疑的だったが、日本以外には反対は無く CISPR 13 には入ってしまった。RMS 平均値について、実質的に使っているところは無く、許容値をどのような根拠で提案しているかきちんと議論が必要である（雨宮主任）
- RMS 平均値に関して、まず SC-H に検討してもらおうという意見もあったが、CD 文書が発行してしまった状況である（雨宮主任）
 - SC-H では許容値は妥当となっている。1GHz を超えるものについては、戦略をどのようにするか考える必要がある（松本）
 - 1GHz 超については話が難しくなり、RSM 平均値でなければならない理由が不明確である。当初、CD 文書を出す前にきちんと議論すべきという話だったが、CD 文書が既に出てしまった（雨宮主任）
 - 1GHz 以上については、ピークは無しにするという提案があり、少ないサンプルで測定すると妥当という結果となる。RSM 平均値の許容値は妥当ではないと思う（千代島）
 - 許容値について、I 検討会で技術的に深い議論が必要である（雨宮主任）
- CISPR H における RSM 平均値の妥当性の検討状況についても御説明をお願いしたい（事務局）
 - RSM 検波器について SCIPR 13 に示された結果を見ると、仮定が満足されているという内容になっている。ただし、前提が成り立たない場合には妥当とは言えない（松本）
- RMS 平均値検波器に関する、SC-H と SC-I とのジョイント TF の設置について検討が進んでいるのかについても御説明をお願いしたい（事務局）
 - そこまでの話は進んでいない。許容値案の妥当性は、SC-I でまず検討が必要である（雨宮主任）
- RMS 平均値について、CD 文書が正式な手続を経ずに発行している場合、SC-I の幹事国でもある日本が指摘すべきであるのかについても御検討いただきたい（事務局）
 - 5 件の CD 文書を出した時に、まとめて文書を出したいという話があった。各国でどんな RSM 平均値を使っているか確認し、どこの国も使っていないとわかったが、CD 文書を出してしまった。RSM 平均値用に新しい値を作っているわけではない（堀主任代理）

- ほとんどの国が使っていないということに対する議論がプレナリであると思われる。日本としての意見を発言するというのを、対処方針に入れる必要がある（長部）
- 対処方針に記載する。本対処方針を作成した時点では、CD 文書が出ていなかったが、現時点でのアップデートした内容に修正する（雨宮主任）
- 7.1 項の WG2 からの報告の、測定設備・機器の不確かさ（MIU）について、「SC-I 議長による CISPR/S への付議結果」とあるが、付議されているか（千代島）
 - 9 月にステアリングがある予定である。その時に議題になると思うが、現時点ではまだ確認できていない（雨宮主任）

（４）電波利用環境委員会報告書（案）について

＜資料説明＞

- 資料 8-3-1「電波利用環境委員会報告概要（案）」及び資料 8-3-2「電波利用環境委員会報告（案）」について、雨宮主任から説明があった。主な点は以下のとおり。
 - 実効値－平均値検波器を用いた測定の導入について、CD 文書が既に発行されていることから、対処方針の修正を踏まえて記載を修正する
 - 資料 8-3-2 1 ページに記載の③9KHz～150kHz について、許容値に CISPR 15 を適用するが、測定方法は新たに検討が必要となる
 - 資料 8-3-2 5 ページに記載の 11 の TF は、12 の TF へ修正する

＜質疑等＞

- CISPR 35 について、日本として主張すべき、または検討すべき点等について議論いただき、報告書に記載する必要があるかをご検討いただきたい（事務局）
 - 12 の TF について、これから議論を開始するということである。そのため、具体的にはまだ記載ができない（雨宮主任）
 - CISPR 24 との整合性の観点ではいくつかあるが、改めて検討を開始するという話ではない（雨宮主任）

（５）CISPR ウラジオストック会議参加者（案）について

＜資料説明＞

- 資料 8-3-2 電波利用環境委員会報告（案）について、雨宮主任から説明があり、特に異論なくが了承された。

（６）その他

（６－１）WPT に関する ITU-R からの CISPR に対するリエゾン文書

＜説明＞

- 今年 6 月の ITU-R SG1 で作成されたりエゾン文書 2 件（参考資料 8-2、8-3）について、久保田関係者から説明があった。主な点は以下のとおり。
 - 資料 8-2 のリエゾン文書は、WPT の関連情報の提供を求めるリエゾンである
 - 資料 8-3 のリエゾン文書は、CISPR、TC69、ISO 等、EV の WPT 規格を検討している組織へ配布

されたものである。周波数一覧は、ITU-R が審議の対象としているもので、他の標準化機関でも WPT についてこの周波数での検討を求めている

- リエゾンバックは、ウラジオストック会議での審議後となる。CISPR I 関連でインプットすべき内容があればいただきたい

<質疑等>

- リエゾンに記載の周波数帯はすべて EV 用のものか（廣瀬）
 - EV 用以外についても検討が進められている。リストに載っていないもので、WPT に使用されている周波数帯もある。CISPR F の関連で、家電用製品で使用している周波数帯があるが、ITU では議論されていない（久保田）
 - ITU の周波数から外れた周波数帯で検討している場合は言った方がよいか（廣瀬）
 - ITU-R が WPT 用の周波数を決定しても、強制する力はない（久保田）
- 次回の WRC-19 で、WPT に使う周波数が割り当てられる可能性はあるか（千代島）
 - WRC の議題は、前回の WRC で決められたもので、WPT 用の周波数帯を審議することになっていない。正式な議題には載せられないが、WPT が無線通信に妨害を与える懸念があるため、十分研究する必要があるという位置付けで報告するという指示が出ている。それに従って ITU-R WP1B がレポートを書いている状況である（久保田）
- CISPR I に関係するマルチメディア機器用の WPT の周波数について、勧告に盛り込まれるかについて御説明をお願いしたい（事務局）
 - 100~300kHz が勧告になる可能性は高い。ただし、ITU-R の勧告は各国の主管庁へ出されるものであり対応は各国の判断となる（久保田）
- リエゾンに対する回答についても御検討をお願いしたい（事務局）
 - 100~300kHz のように周波数帯が広いと、色々な議論が出てくるのではないかと（雨宮主任）
 - IEC の製品規格の中には EMC 要件が含まれており、CISPR との整合が求められるが、TC100 のマルチメディア機器の WPT の規格が必ずしも CISPR と整合しているかはわからない。CISPR I と TC100 で調整をする必要があると思う（久保田）

（6-2）今後の予定

- 電波利用環境委員会は 9 月 21 日の開催を予定していること及び作業班の次回会合は事務局から構成員にメールで案内することが事務局から説明された。

以上